

(2) 海上での流出油の回収

事前準備

流出油事故は、いつどのような状況下で起こるか予測できません。日頃から地形、海況、海面の利用状況等を考慮した効果的な防除方法を考えておきます。

生簀全周、漁港入り口、防波堤間の距離を確認し、封鎖等に必要な長さの長尺型油吸着マットや油回収ネットをあらかじめ準備しておくことが望まれます。

基本的な防除回収の考え方

タンカーや貨物船の載貨または燃料のC重油が海面へ流出すると、海水により冷却され、波浪にもまれながら徐々に水分を含みエマルジョン化し、更に時間経過によりムース状となり、沿岸のごみ・砂礫等が付着し、容積が数倍～10倍にふくれ上がることがあります。また、砂浜などに漂着した場合は一潮ごとに層をなして浸透することもあります。従って流出油は海上に漂流している間に全て回収することが理想です。



砂浜に浸透した油

油回収ネット等による回収

油回収ネットや長尺型油吸着マットを2隻の小型船でU字型に曳航し、油を回収します。

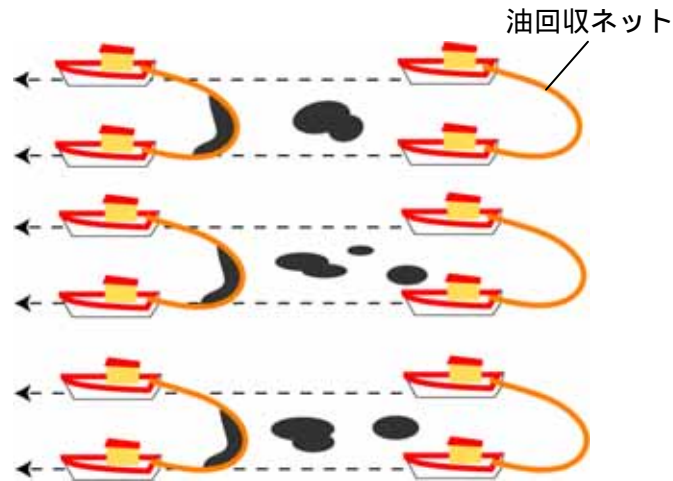
長尺型油吸着マットによる浮流油の追い込み曳航は0.5ノット以下とし、中央部が

水圧により沈まないようにします。油回収ネットによる曳航は2ノット以下とします。

また、広範囲に多量の高粘度油が流出し、油の影響を受け易い生簀や取水口等に接近した場合は、小型船で船隊を編成し重点的・組織的に防除します。



伊豆大島波浮港外で座礁したファル・ヨーロッパ号(56,835トン)から流出した浮流油を小型船2隻で油回収ネット(40m)をU字型に曳航包囲して効果的に回収しました。



浮流油が多い場合には船隊を編成して回収します。

古漁網による流入防除

古漁網をテトラの前面や港の入り口等に展張すると、油が付着したごみ等の流入を防止することができます。

長尺型油吸着マットによる少人数での防除法と作業手順

長尺型油吸着マットを2～3名で展張し、流出油の拡散を防止しながら吸着回収します。

油の流れる方向を中心に包囲しますが、時間の経過により長尺型油吸着マットは水を吸い、流速や風圧抵抗等によりU字型の中央部が沈むことがあるので注意します。

油が広範囲に拡散している場合は、長尺型油吸着マットを小型船2隻でU字型に曳航し、包囲しながら回収します。

長尺型油吸着マットで浮流油を包囲し、油層が厚くなった中へ小型油回収枠を投入して油水を汲み入れてさらに油を濃縮し、効率的に油回収を行います。

油吸着後の長尺型油吸着マットは油回収ネットの回収と同様の方法(P9参照)で回収します。